

学長あいさつ

Message from the President



学長就任以来、早いもので6年目を迎えました。その間、社会情勢の大きな変化、まさに激動の年が続く中、国立大学を取り巻く環境も、グローバル化や少子高齢化が進み、依然として厳しい状況が続いています。

秋田大学は、「地域の活力を生み出すエンジンとなり、世界をリードする教育研究拠点の構築」を目標に掲げ、「世界に飛躍する大学作り」の実現のため様々な試みに挑戦し続けてきました。その中で、「国際資源学部の新設」と「教育文化学部及び工学資源学部の再編」を最重要課題に位置付けています。これまでの学部機能の抜本的強化と効率化を図り、日本の資源学の一大拠点となるべく、ナショナルセンター機能を有する国際資源学部を新設するとともに、地域に根ざした教育と研究の深化を目指し、リージョナルセンター機能を有する教育文化学部、理工学部及び医学部に再編し、平成26年度から4学部体制で、地域、そして国民の皆様から必要とされる大学となれるよう、目指してまいります。

既に中期目標・中期計画期間の第2期目に入っていることから、一段と精度を高めた施策に取り組み、その具体策として、学習者中心の教育やFDの強化、就職支援はもとより、研究面では、連携型プロジェクトや資源リサイクルなどの教育を一層推進し、地域貢献では「横手分校」「北秋田分校」のほかに、東北公益文科大学と連携した「きたまえ塾」を強化し、リーダーシップを養成しながら、日本海地域の活性化も推進していきます。

また、全国トップレベルを誇る本県小中学校の学力を維持・発展させるため、附属学校園を活用しながら、本学主導のプログラム等も具体的な検討に入ります。

国際化では、平成24年10月に目標としていた留学生200名受け入れを達成し、キャンパスも一段と活気を帯びてきました。今後も協定校を増やししながら、留学生・外国人研究者の受け入れや本学学生の海外留学も推奨し、資源関係では、ボツワナ、モンゴル、カザフスタンなどの資源大国との連携を一層密にしていきたいと考えております。

地域・世界を視野に入れた独創的な挑戦。そこに集う者が誇りをもち、社会にとって必要な存在になる。地方の国立大学に課せられた使命は重いだけでなく、ロマンに包まれています。

国立大学法人秋田大学長 吉村 昇